

2025年度 活動報告

1. 技術開発事業（開発委員会）

2025年 BIM 図面審査の対応・情報収集

① BIM 開発用パソコン購入

IFC ファイルと CEDXM の連携、CLTStructWorks と IFC ファイルの連携、2026 年度に計画している CLTStructWorks 用の IDS ファイル策定した際の動作確認など、現在までの 7 年間、IFC 関連の開発事業を進めてきたが、手元に BIMCAD が不在の状態、これ以上の検討・開発は非常に難しくなってきたため、パソコンを 1 台導入した。

BIMCAD は、現在のところ、福井コンピュータアーキテクト(株)から貸し出された GLOBE のライセンスを利用している（半年ごとのライセンス契約となり、3 月 31 日で期限切れたため、2026 年 9 月末まで延長している）。

② IFC2CEDXM (Cedxm_Pset_param 仕様書) の公開

当評議会ホームページに仕様書を公開している。

URL : <https://www.cedxm.com/download/>

2. 情報提供事業（普及広報委員会）

(1) 制度改正と CEDXM 連携の実態把握アンケートの実施

2025 年 4 月に施行された「4 号特例縮小」を含む制度改正によって、実務上どのような変化が生じたかを把握し、シーデクセマ評議会として今後の対応・支援策に活かすこと、また CEDXM 連携に関する実態やニーズを把握し、今後の連携促進に向けた施策の検討材料とすることを目的としてアンケートを行った。

アンケート結果は、日刊木材新聞記事として掲載している。また、当評議会ホームページでも公開している。

URL https://www.cedxm.com/file/Survey_Summary_Report_2025.pdf

(2) プレカット工場ヒアリング調査

プレカットラインの見学、CAD 入力、加工の品質、周辺への資材提供、情報提供、法改正への対応、CEDXM 連携の実際など、多岐にわたるヒアリングを実施した。

日 時：11月12日（水）

訪問先：クラシス㈱（福井県鯖江市）

ヒアリング概要は以下のとおり。

* * * * *

クラシス㈱は福井県内の中小工務店を中心に、月間約 3,200 ～ 3,300 坪のプレカット加工を行っており、設計支援や構造計算業務への関与も拡大している。特に 4 号特例縮小後は、確認申請の前倒しや構造計算対応の増加により、工務店からの依存度が高まっている状況が共有された。

また、CAD データ連携については、CEDXM を活用した情報連携に期待がある一方、意匠 CAD とプレカット加工精度の差異や責任区分の問題など、実運用上の課題も多いことが確認された。

工場見学では、加工工程の効率化や機械化推進による手加工削減への取り組みが紹介され、非住宅案件への対応強化も進められていた。

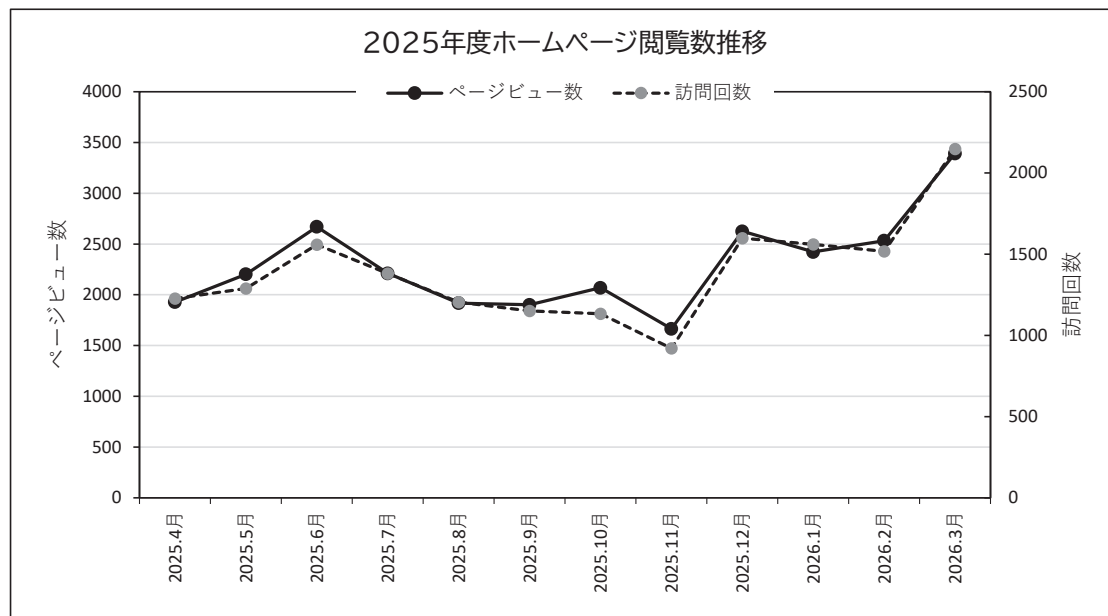
今後は、プレカット CAD・BIM 連携や CEDXM 活用を通じた業務効率化、工務店支援の高度化に向け、継続的な意見交換を進めていく予定である。

(3) ホームページの修正

ホームページ内の会員一覧、それに付随するページへのリンクの修正を行った。

アクセス数と各種ツールダウンロード数は以下のとおりである。

■ WEB アクセス数（2025 年 4 月～ 2026 年 3 月）



■ 各種ツールダウンロード数（2025年4月～2026年3月）

当協議会では一般ユーザーがダウンロードして活用できるツールをホームページに掲載している。
本年度のダウンロード数は以下のとおりである。

金物マスター仕様書 ver2.4（2019年8月公開）	6件（累計150件）
金物マスターファイル（2018年1月公開）	10件（累計255件）
IFC2CEDXM（Cedxm_Pset_param仕様書）（2026年3月10日）	3件

3. その他活動

（1）理事会の開催（全6回）

第1回	日時	2025年4月10日（木） 15:00～16:30
	会場	ハイブリッド方式：(株)コンピュータシステム研究所 会議室／zoom 利用
	議事	2025年度シーデクセマ評議会体制案 2025年度事業計画について 2025年度総会開催について、他
第2回	日時	2025年6月11日（水） 12:30～13:30
	会場	ハイブリッド方式：A P東京八重洲 Gルーム／zoom 利用
	議事	総会出席状況及び進行の確認、他
第3回	日時	2025年8月4日（水） 15:00～16:30
	会場	ハイブリッド方式：京都大学東京オフィス中会議室／zoom 利用
	議事	総会報告 各委員会報告 ホームページの更新について 「制度改正とCEDXM連携の実態把握アンケート」結果報告、他
第4回	日時	2025年10月9日（木） 15:00～16:30
	会場	ハイブリッド方式：京都大学東京オフィス中会議室／zoom 利用
	議事	「制度改正とCEDXM連携の実態把握アンケート」結果の広報について 各委員会報告 BIM用PC購入について プレカット工場取材について、他
第5回	日時	2026年1月15日（水） 15:00～16:30
	会場	ハイブリッド方式：京都大学東京オフィス中会議室／zoom 利用
	議事	各委員会報告 「制度改正とCEDXM連携の実態把握アンケート」結果のホームページ掲載及び日刊木材新聞記事掲載について プレカット工場取材報告 2026年度総会開催について、他

第6回	日時	2026年3月25日(木) 15:00～17:00
	会場	ハイブリッド方式：宮川工機(株) 会議室／zoom 利用
	議事	新規入会及び退会者について 2026年度活動方針・活動計画について 2026年度総会・基調講演について、他

(2) 総会・基調講演の開催

①総会

2025年度の総会はハイブリッド形式で実施し、会員が対面またはオンラインの参加方法を選択できるようにすることで、参加しやすい環境を整えた。基調講演については、会員以外の方にもオンライン聴講の機会を提供した。

日 程：2025年6月11日(水) 14:00～14:40

開催方法：ハイブリッド開催（AP 東京八重洲 会議室／ZOOM 利用）

正会員総数：49社

出席会員数：42社（うち対面出席者 17社、オンライン会議出席者 11社、委任状 14社）

決議事項：

（第1号議案）2024年度事業報告及び決算関係書類承認の件【原案どおり可決】

（第2号議案）2025年度事業計画及び予算関係書類決定の件【原案どおり可決】

（第3号議案）役員選挙の件【原案どおり可決】

②基調講演（15:00～17:00）

テーマ：BIM 図面審査のあらままと、これからの木造 BIM のあり方

講師：武藤 正樹 氏（国立研究開発法人建築研究所 建築生産研究グループ 主席研究監）

動画公開：<https://youtu.be/DhBhNXuhGOY>（会員に限定し告知）

(3) 運営委員会の開催

運営委員会では、主として評議会の運営方法（方針）等について、藤澤理事長を中心に検討している。2025年度は全8回行った。

(4) その他

①ホームページ検討会議の開催（全1回）

現在のホームページは、2018年に作成されたものである。評議会20周年に向けて、リニューアルするための検討会議を行った。

開催日時：2025年7月22日（火）13：00～14：00

開催方法：オンライン方式

②新規入会者ヒアリングの実施

2026年2月に入会した(株)QuantamNetに、入会の経緯、CEDXM利用状況などヒアリングを行った。

日 時：2026年2月17日（火）15：00～16：00

開催方法：対面方式

②庶務事項

2025年6月23日 一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会総会出席

2025年6月20日 東京都 事業報告書等提出、7月23日付受理

2025年6月27日 法務局 役員変更届（役員改選による理事長重任）提出

2025年7月11日 東京都 役員変更届提出、7月14日付受理

建基法改正で審査期間が長期化

新たに柱小径確認等の作業が増加

シーデクセマ評議会アンケート

シーデクセマ評議会（東京都、藤澤好一理事長）は、2025年4月の建築基準法改正などによる建築確認申請とそれに係る設計、プレカットに係る業務実態の変化についてアンケートを実施した。設計業務の変化については「柱小径確認」42・7%、「許容応力度計算」39・4%、「壁量計算（表計算ツール）」35・0%などの順に増加したことが分かった。

この調査は、建築基準法の改正、全国木造住宅機械プレカット協会の特例縮小による影響について、プレカット工場とその依頼先となる工務店、設計事務所、ハウスメーカーなど業態ごとにアンケート方式で今年7月～8月にかけて実施した。宮川工機、福井コンピュータの取引先に加え、JBN・全国工務店協会、耐震性能見え

業務としては柱小径確認が最多で、業態別では地場ハウスメーカー55・0%、設計事務所50・0%、工務店45・9%、大手ハウスメーカー44・4%、プレカット工場29・1%が増えたと回答している。「N値計算」51・6%、「4分割法」については、52・3%が変わらないと回答しており、従来から実施して

いたところが多いことがうかがえる。審査機関からの質疑については、「許容応力度計算」が25・3%で最多。「壁量計算（表計算ツール）」は、18・1%、「柱小径確認」は16・6%と、いずれもさほど高くない。建築確認審査に要する日数は「大幅に長くなった」が53・9%、「やや長くなった」21・0%、「変わらない」21・6%で、「変わらない」は3・4%に過ぎない。具体的な確認審査に要する期間は「1カ月以上」35・0%、「2週間～1カ

月」25・1%、「1～2週間」7・8%といずれも長期化していることが分かる。テーマごとの自由回答では、設計事務所は、審査遅延、審査期間の長期化、業務負荷、作業時間の増加などを指摘。工務店、ハウスメーカーは、審査業務の簡略化、施主が望んでいないさまざまな法的対応、スペック増加による費用負担の増加、中小工務店にとっては負担増、存続への不安なども指摘している。評議会への要望、期待することでは、ソフトの互換性、プレカッ

トCADと構造計算の連携、番付の方向や表記の統一などが挙げられた。国土交通省では、BIM図面審査が検討されているが、住宅会社側ではBIMの情報までを必要としないケースもある。構造計算ソフトからIFCファイルでデータを掃出できれば審査側はそのデータで審査が可能になり、CEDEXでも1棟分のIFCファイ

ションアップして対応できるようにするなど、今後の検討課題にしている。

